

あなたの体の中の遺伝子は 誰の物ですか？

— 生命特許と遺伝子組み換え —

すべての命の
みなもとは私です



生命に特許はいらない！キャンペーン

はじめに

天笠啓祐（市民バイオテクノロジー情報室）

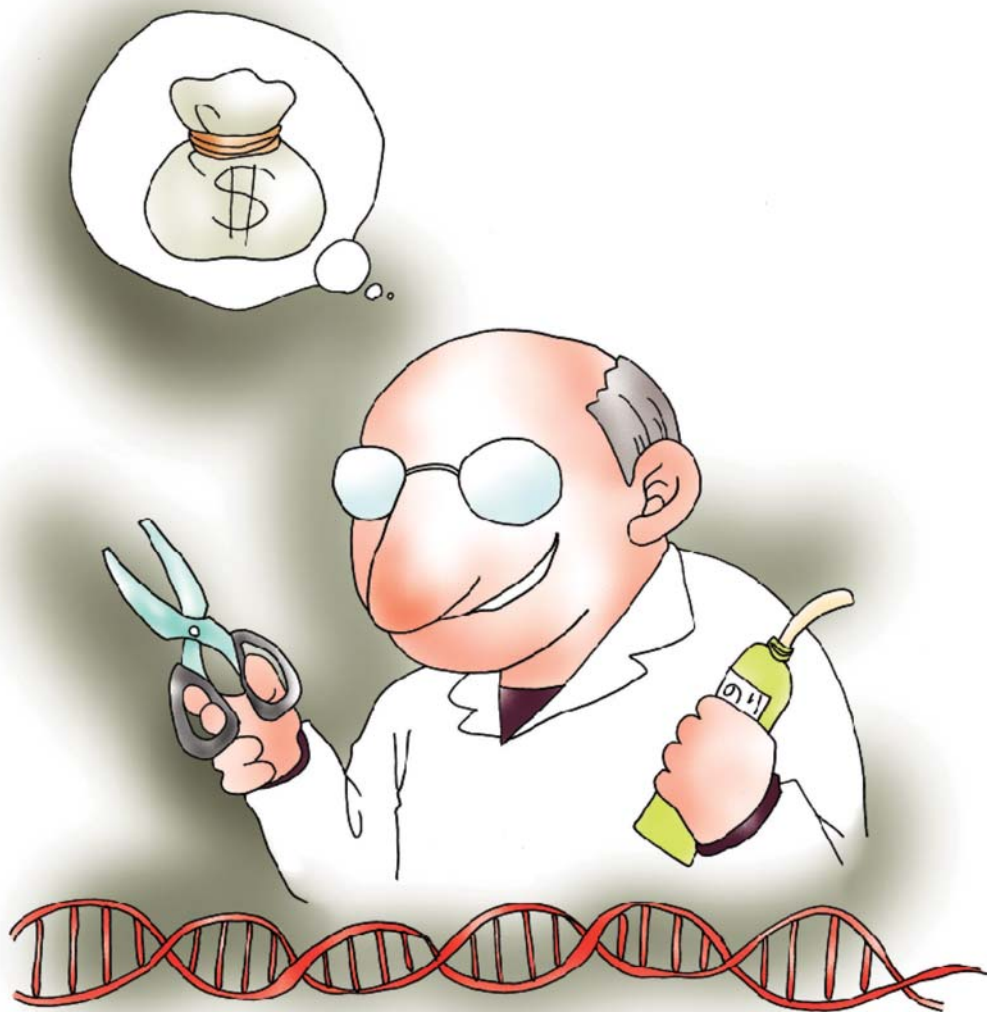
最初に生命に特許権をもたらしたのは米国で、1980年のことだった。それ以来、生命の私物化が広がった。1990年代には遺伝子も特許として認められた。これによって、たったひとつの遺伝子を入れるだけで生命全体を私物化できる仕組みができ上がった。

生命特許は、企業による生命の独占をもたらしただけでなく、生命の操作を加速させ、金儲けのための無秩序な生命改造合戦を進行させた。早くこの生命特許を止めないと、地球や人間の未来は暗澹たるものになるだろう。

安田節子（食政策センター・ビジョン21）

「これまでは認められるはずもなかった権利が企業に付与され、生命体に知的所有権を主張し、私有化することがまかり通っています。

この本を読んだら、あなたもきっと声を上げるでしょう。『生命特許』禁止！と」



遺伝子組み換え

現在、生物の遺伝子を組み換えることが可能になっています。この技術を用いて新しい食品や医薬品を作れば膨大な利益を得られるため、企業や大学などは遺伝子を解析し、組み換え技術を開発して、それらに対する特許権を取得しようと競っています。



生物は特許の対象になる、という判決

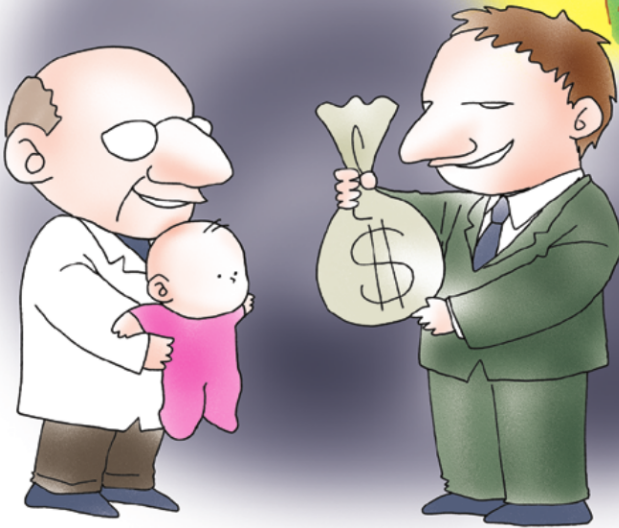
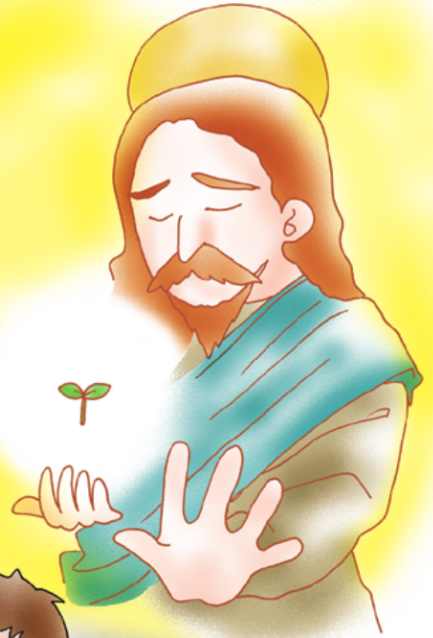
ジェネラル・エレクトリック社のアナンダ・チャクラバルティが1971年に、遺伝子組み換え技術を用いて、微生物を開発して特許を申請しましたが特許局は、生物は特許対象にはならないとして、申請を却下しました。彼は訴えて1980年、アメリカ最高裁は5対4の評決で、生物は特許の対象になる、という判決を下しました。(米最高裁は2013年6月、人間から取り出した遺伝子に関する特許の有効性をめぐる裁判で、これを無効とする判決を全会一致で下した。)



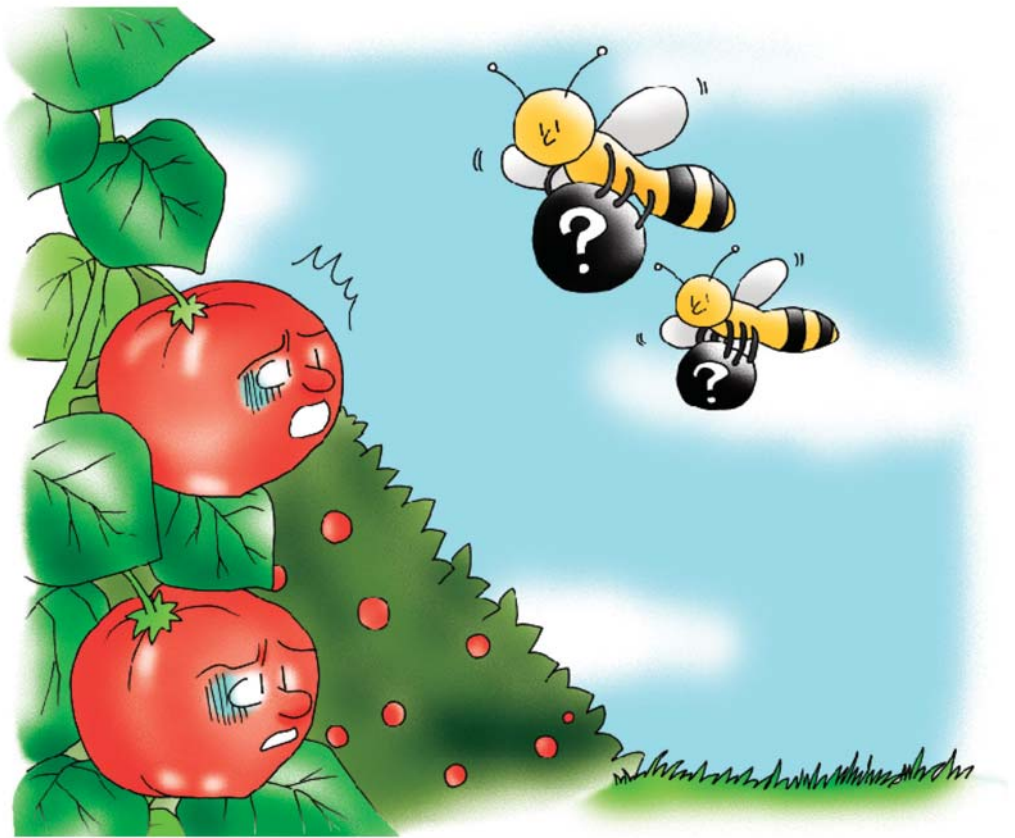
「我が社がこれを発明しました。」

遺伝子は生命の基礎的な構成要素であり、遺伝子に対する特許は生命に対する特許を意味します。特許はその「もの」に経済的な価値を認めることを意味し、生命に対する特許は生命に経済的な価値を認めています。生命は商品として売買できるものでしょうか？

これこれすべての
生きとし生ける者を
作ったのは私ですよ



又、特許によって一人の化学者、或いは一つの大学か会社が生命を所有する事になりますが、宗教の考えでは生命はみんなのものです。多くの化学者もそう思っています。英国王立学士院もアメリカ科学アカデミーもひとゲノム（人間の遺伝子の全体）はみんなのものだと言っています。



遺伝子組み換え汚染

遺伝子組み換え植物の花粉が風や虫に運ばれて拡散し、遺伝子組み換えでない品種が知らないうちに遺伝子組み換え植物になってしまうことがあります。全世界の主食作物が遺伝子組み換え品種に変わり、従来品種が消えてしまう可能性があります。



会社が農家を起訴しています

特許を持つ会社が、畑で栽培していた従来品種の作物が近くの畑で栽培されていた遺伝子組み換え品種と自然交配してしまった農家を、自社品種を勝手に栽培した、つまり知的所有権を侵害したとして起訴した例もあります！



スーパー雑草・耐性害虫が広がる

遺伝子組み換え作物の栽培が広がっているアメリカなどでは、除草剤を掛けても枯れない雑草や、殺虫毒素に抵抗力を持ったが害虫が増えています。その対策のため、除草剤や殺虫剤の使用量がどんどん増えつづけています。



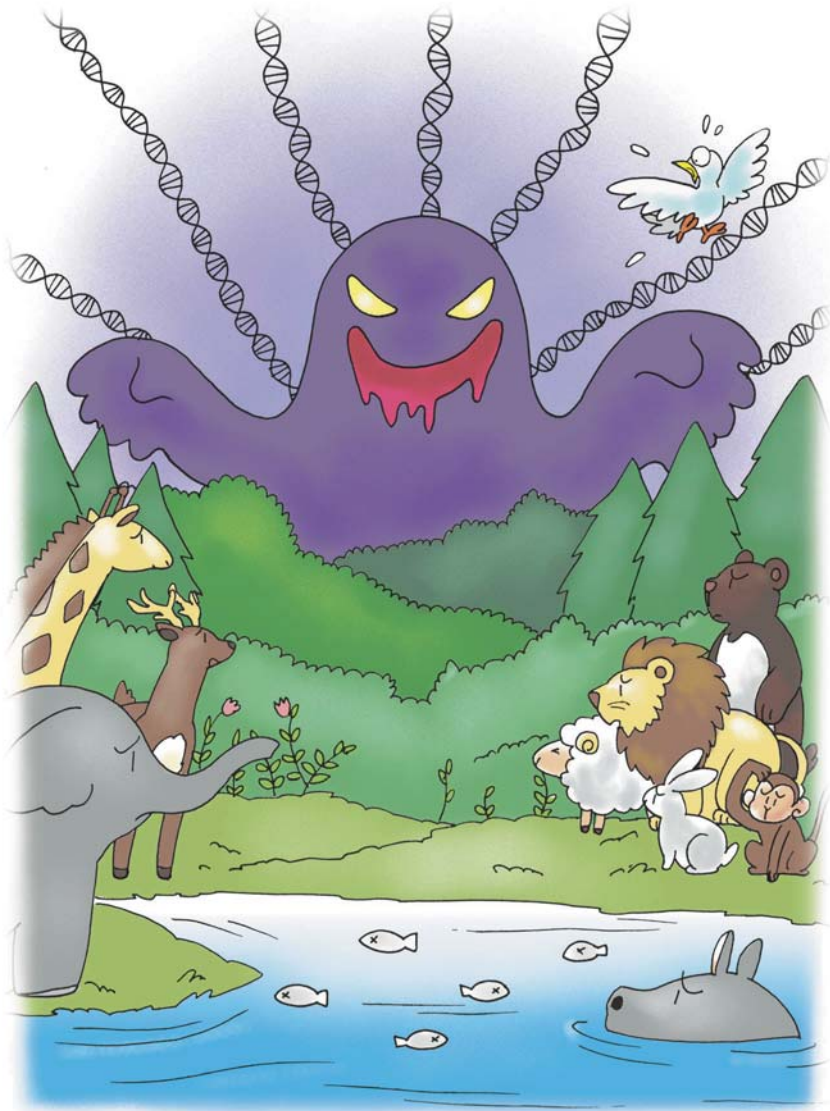
種子市場の支配

例えば遺伝子組み換えナタネが全世界に広がり、従来品種が消えてしまうと、そのナタネの特許を持つ会社が全世界のナタネを支配することになります。遺伝子組み換え品種を栽培する農家は、特許を持つ会社に毎年特許使用料を払わなければなりません。



自殺するターミネーター種子

アメリカや多国籍企業は種子を独占するために、農家が自家採種しても芽が出ない自殺する種子を開発しました。これは種子の内部で自殺毒素ができるようにしたもので、もしこの遺伝子が汚染などで広がると、次々と命あるものが自殺していくことになります。



生物多様性が失われる

生命あるものは、他の生命と交互に助け合いながら存在しています。遺伝子組み換えは、その生命の連鎖を断ち切るため、次々と生物種が失われていく危険性があります。その結果、生物多様性は奪われ、自然はどんどん貧しくなります。



遺伝子組み換え食品

遺伝子組み換え食品は、安全性に強く疑問がもたれています。ある科学者が遺伝子組み換え大豆を母親のラットに食べさせたところ、高い割合で赤ちゃんが死亡しました。モンサントの殺虫成分を生産する細菌のDNAが、北米の80%以上の女性と、その胎児の血中から検出されているとの報告があります。



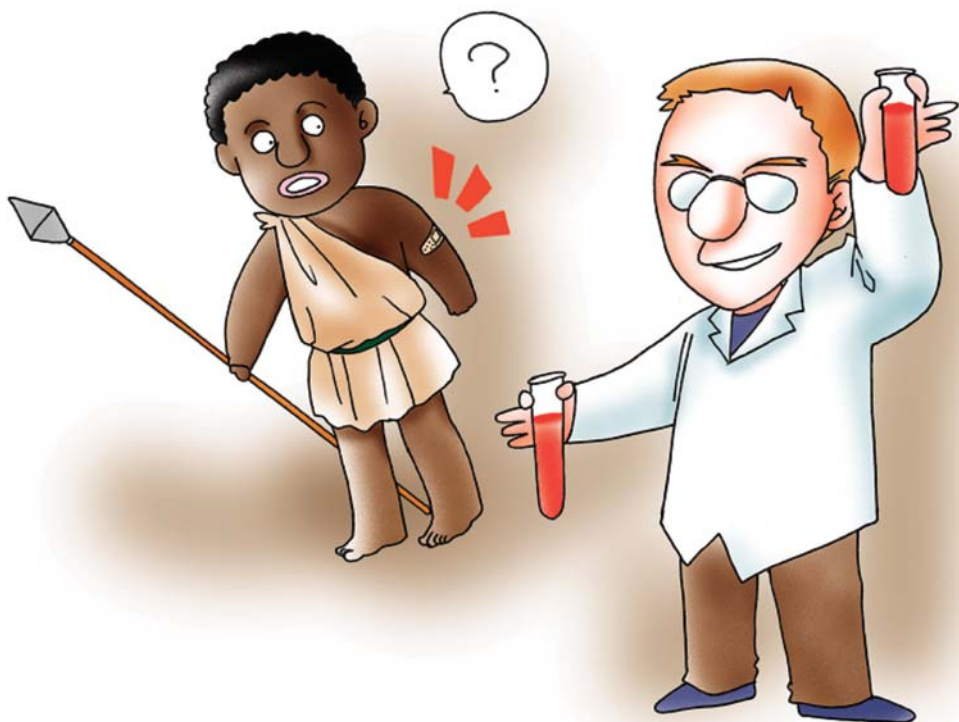
表示されない遺伝子組み換え食品

アメリカ政府やモンサント社などは、世界中に遺伝子組み換え食品を売り込むため、食品に表示させないよう圧力をかけてきました。そのため日本でも油や醤油など、ほとんどの食品に表示がなく、私たちの食卓にたくさん遺伝子組み換え食品が来るようになりました。



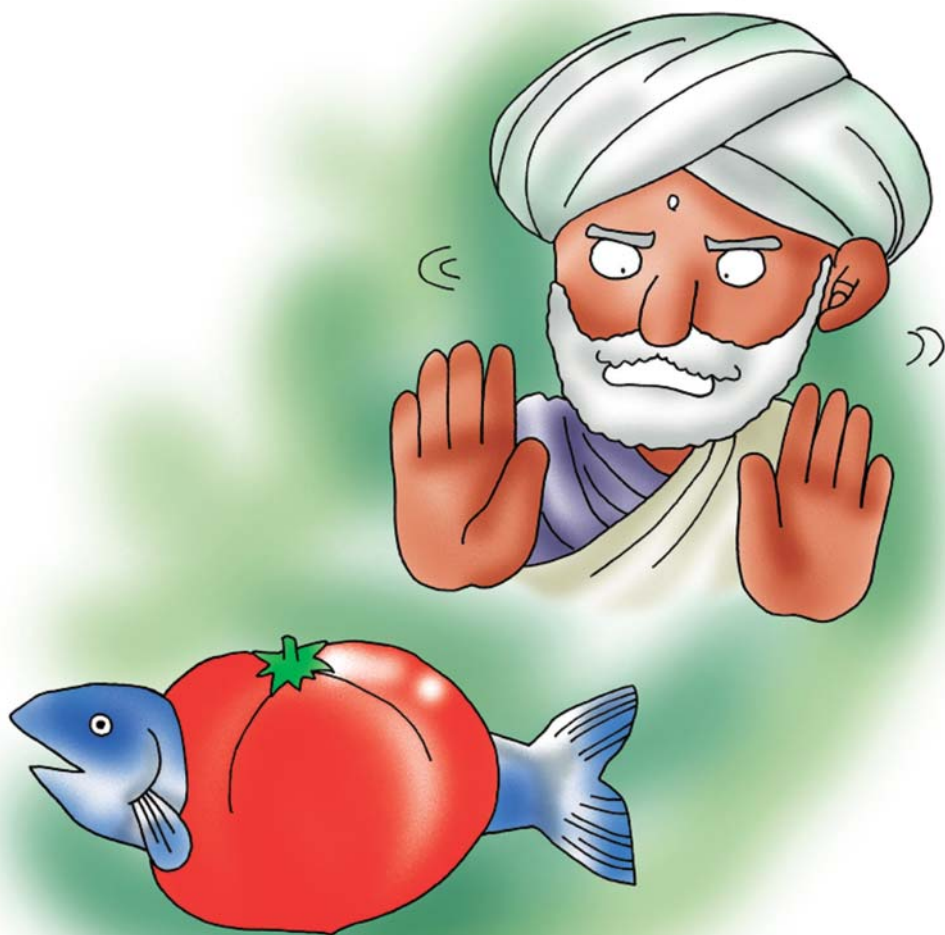
バイオ海賊

会社は科学者を全世界の貧しい国々に派遣し、植物や動物の遺伝子を探させています。お金になるものを見つけるとそれをアメリカや日本へ持ち帰って特許を取り、貧しい国の植物や動物の遺伝子を自分のものにしていきます。



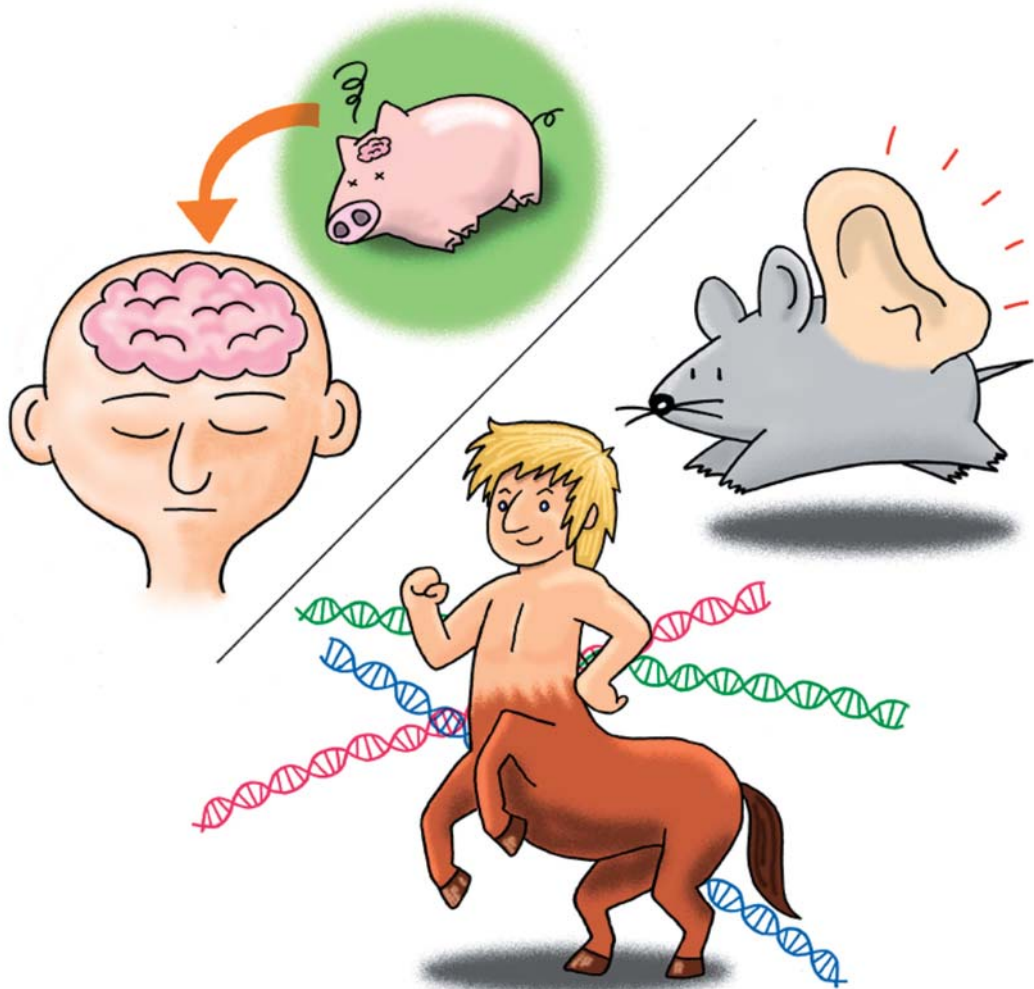
人のDNA泥棒

パプアニューギニアのハガハイ族は海外の研究者に予防接種を頼みました。研究者は彼らのDNAサンプルを採取し、アメリカに送りました。彼らが白血病に対して免疫を持っていることが分かると、研究者はアメリカでその遺伝的性質に対する特許を取りました。



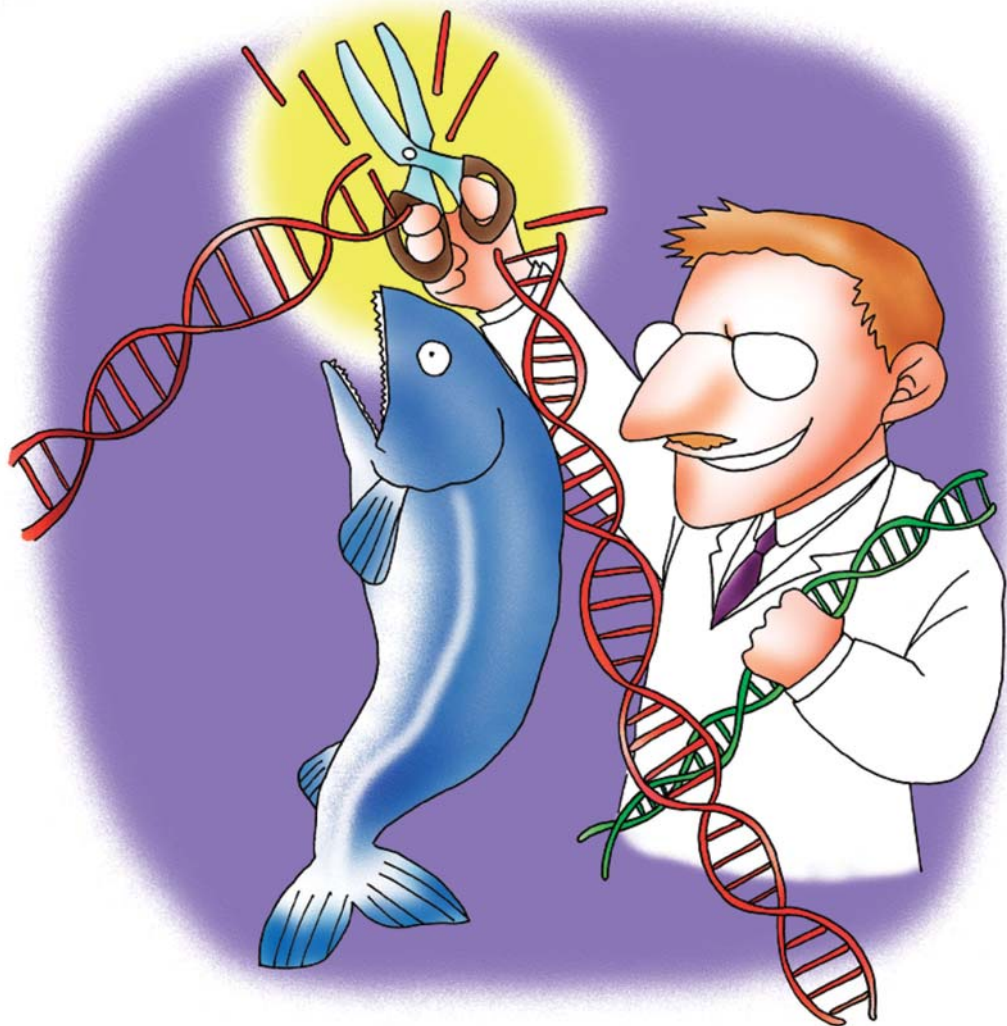
困る菜食主義者

魚の遺伝子が組み込まれたトマトや、細菌の遺伝子が組み込まれたジャガイモも開発されています。ヒンドゥー教徒などの菜食主義者は、このような野菜を食べられません。



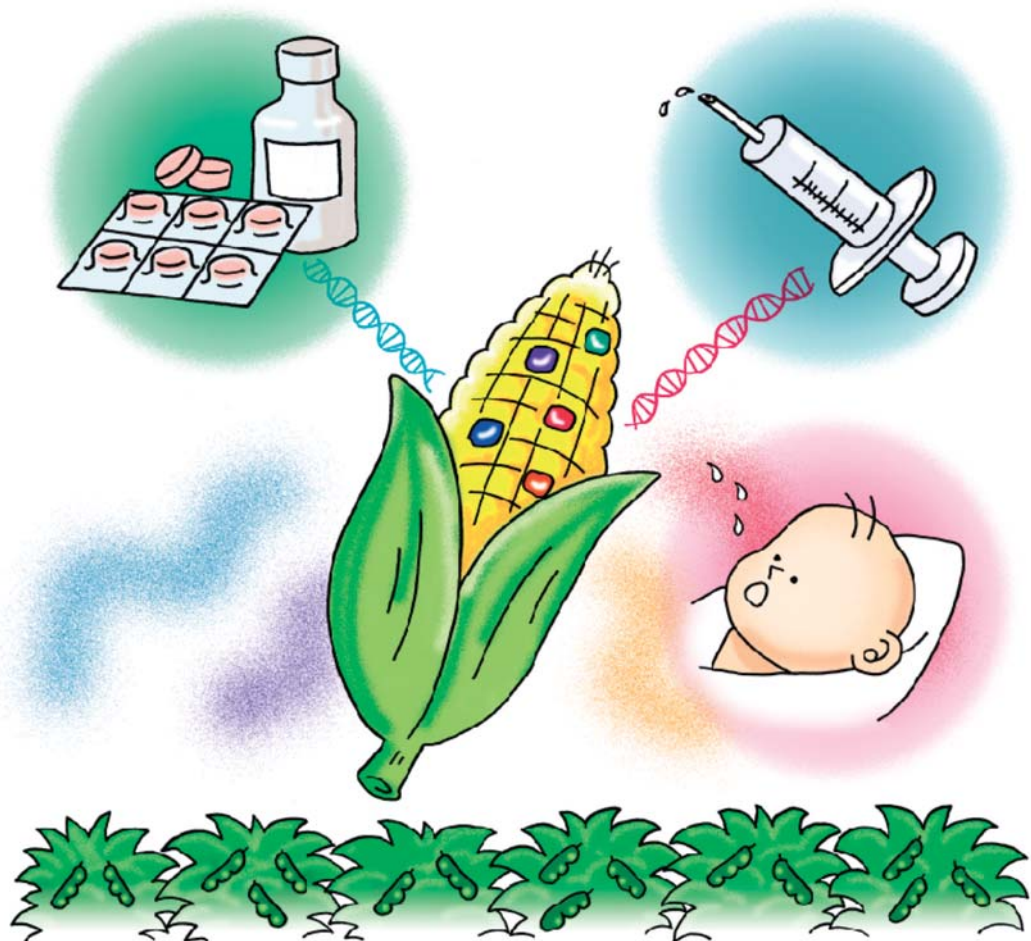
異種移植

製薬会社や保健当局は、遺伝子を組み換えた豚や人間以外の霊長類などの動物を、臓器や細胞を人間に移植する「ドナー」として使うことを提案しています。マウスの背中に人間の耳が生えるように遺伝子を組み換えた研究者もいます。



動物虐待

早く成長し、巨大化するように、他の魚の成長ホルモンが組み込まれた遺伝子組み換えサケも開発されています。この鮭は頭が異常に大きくなるため、呼吸ができなくなって、苦しみながら死にます。このように動物を虐待してもよいのでしょうか。



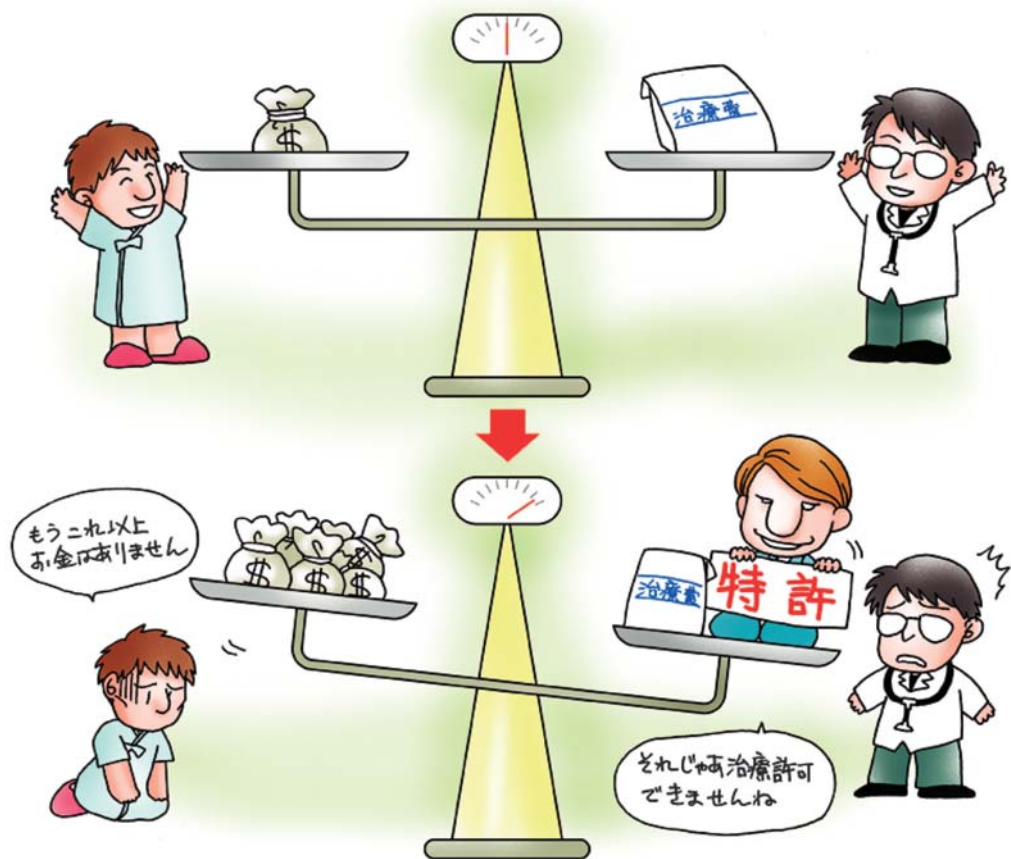
バイオ製薬品

企業は遺伝子組み換え作物や生物を使って、医薬品やプラスチック製品などさまざまな化学物質を作り出そうとしています。2002年には、生物医薬品を生産するために遺伝子を組み換えられたトウモロコシが、食品として栽培されている大豆を汚染しました。



医療を妨げる特許

病気の研究をしている会社は、その原因や治療について情報を持っているにもかかわらず、企業秘密や利益を守るために、その情報を必要としている医療関係者に渡すことを拒否することがあります。



高くなる医療

特許のために検査の費用が高くなることもあります。乳癌のスクリーニング検査に使われるある遺伝子の特許を申請した企業が、公営研究所に対し、この遺伝子を使った遺伝子検査を実施するたびに特許使用料を払うよう求めたケースがあります。



研究を妨げる特許

特許が研究を妨げることもあります。アメリカ国内の研究機関の所長を対象にしたアンケート調査によると、4人に1人がバイオテクノロジー企業から、アルツハイマー病や乳癌などといった病気の臨床実験の中止を命じる手紙を受け取ったことがあるそうです。

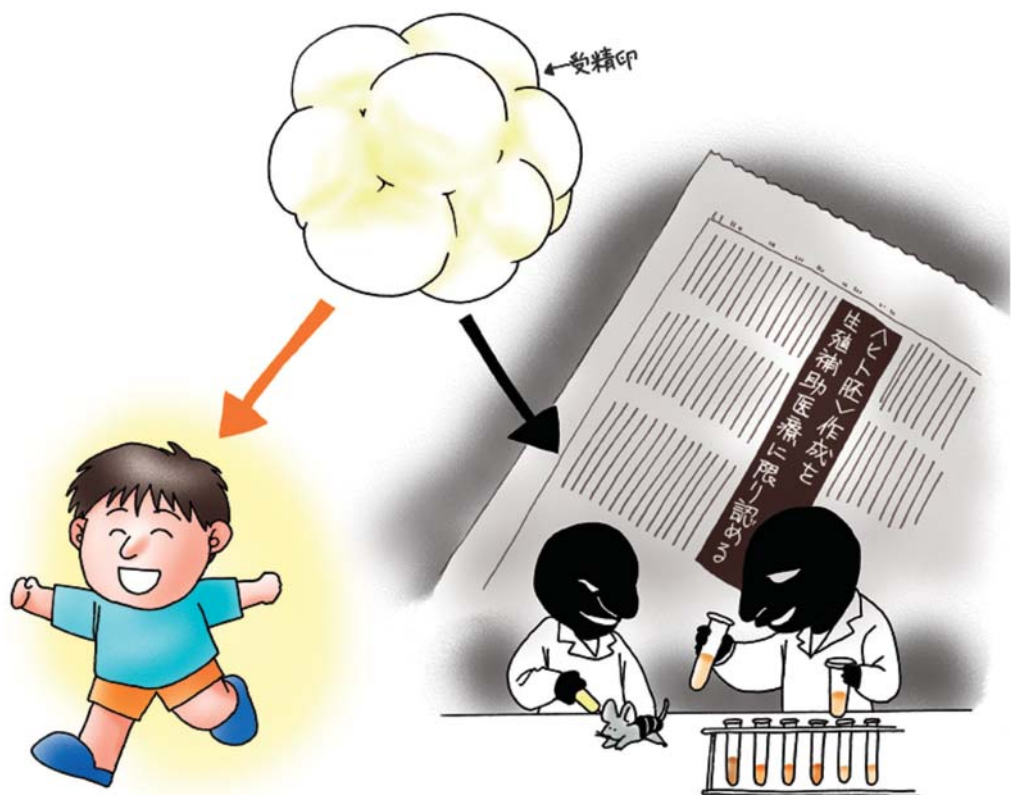


保険会社側は
その子供の保険加入を
お断りします



新しい差別

病気の原因となる遺伝子を持つ人の雇用や保険への加入を断るというケースも起きています。妊娠中の女性が保険会社に、病気の原因となる遺伝子を持つ胎児の中絶を迫られたケースもあります。



ES細胞

体外受精では、余った受精卵からES細胞（ヒト胚幹細胞）が取ることができます。ES細胞は身体のどの部分にでも発展するため、病気で問題がある身体部分と入れ替える実験に使われます。生きている受精卵をこのような実験に使ってよいのでしょうか？



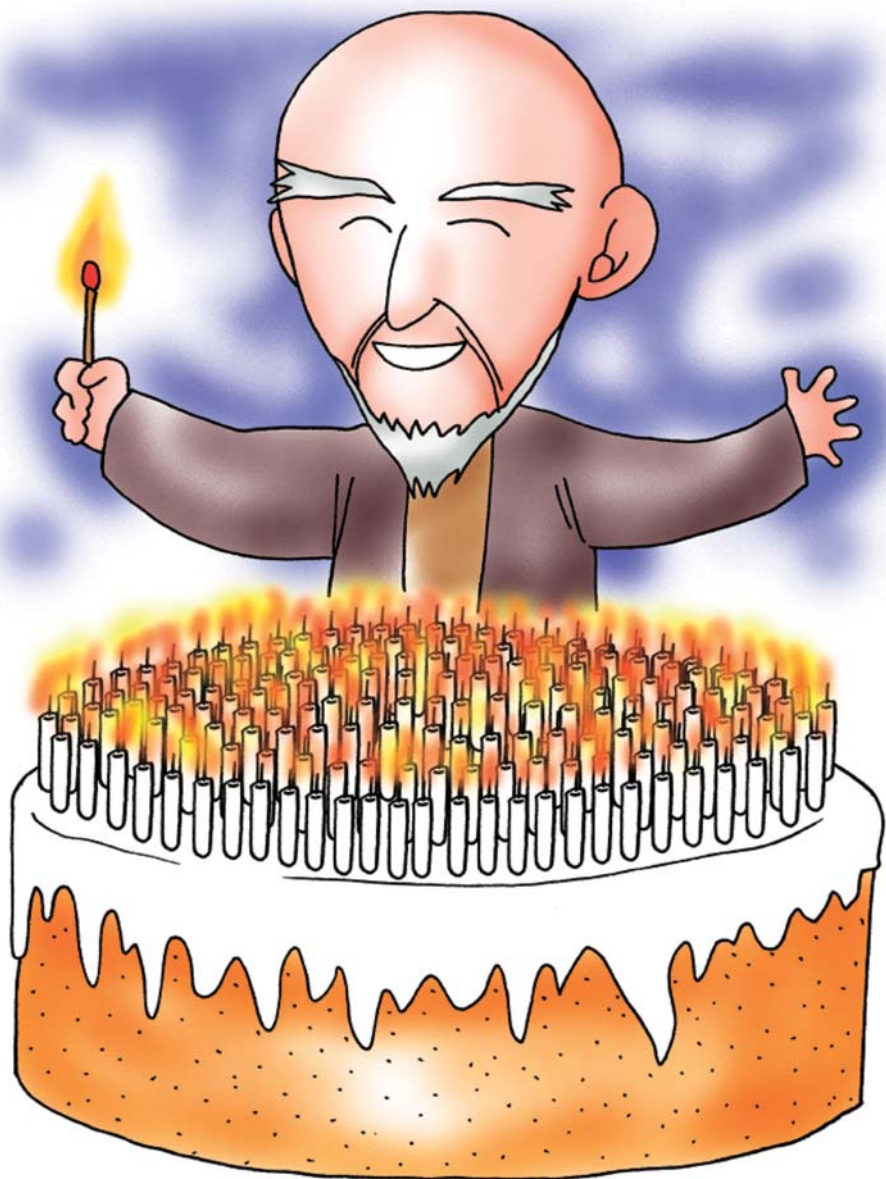
クローン人間

クローン人間はもう作られています、細胞の数が少ない段階で死んでいます。クローンを作る理由の1つは、病気で問題がある身体の部分を入れ替えるためです。クローンのDNAは本人と全く同じなため、拒絶反応は起きないだろうと考えられています。



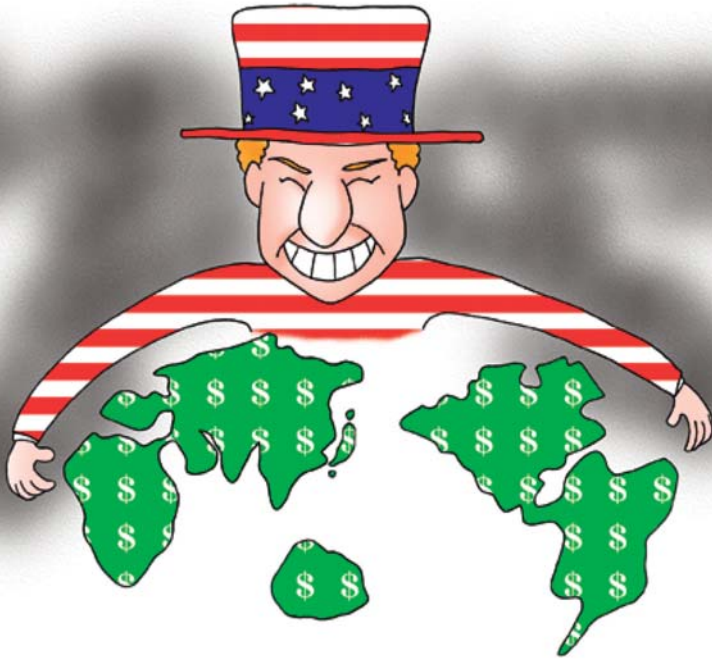
オーダーメイド赤ちゃん

オーダーメイド赤ちゃんが注文できるようになります。例えば、頭のいい子供が欲しい人は知能指数の高い遺伝子を買ひ、スポーツ能力の優れた子供が欲しい人はそういう遺伝子を買ひ、それを胚に組み込んで、子供を生むことができるようになります。



延びる寿命

遺伝子組み換え技術で寿命を延ばす研究も行われています。研究者は人間の寿命を200～300歳まで延ばせると考えています。



世界を支配するアメリカ

アメリカは遺伝子組み換え技術が最も進んでいる国で、世界貿易機関（WTO）の知的所有権の貿易関連の側面に関する協定（TRIPS）、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）などを使って自国の特許制度を全世界に認めさせようとしています。これは世界的規模で独占状態を構築しようと言う策略です。

宇宙が誕生してから約 150 億年、人類の誕生からは約 2,600 万年とされています。つまり、人類が地球上に現れることができる状態になるのに、140 億年以上かかったのです。地球はこの間に、動植物の生存に関する数え切れないほどの実験を繰り返してきました。

人類は過去 200 年の間に、天然資源を搾取する科学技術を通して、地球の化学、地質、生態を、かつてない規模で変えてしまいました。私たちは、この惑星の空気、土壌、水、太陽光、生物を破壊しています。

いま、科学者たちは未熟な技術を用いて、遺伝学的に同一の動植物を創り出しており、自然界が何百年もかけて構築してきた実験が無に帰しています。食品生産流通網を支配するために、つまりは人々を支配する一つ的手段として、そうしたことが行われているのです。

先進的な産業文化は最大の利益を得るという経済的理由のため、あるいは、政治的に支配する目的で、大衆をコントロールし、魅了し、操る手法を編み出した。そのために、人間が人間でなくなっている。人々が目を覚まし、自分自身、社会、国家、そして世界がいま置かれている窮状を見据えられるよう、尽力すべきです。

コミュニティの力を増進させること、そして、自分の生活と世界を知り、それを自らコントロールできるよう、人々を啓発する環境をつくりましょう。

ブレンダン・ラヴェット

あ と が き

これを読んでショックを受けられた事でしょう。しかし、この冊子は遺伝子組み換えと生命特許について非常に簡単な導入にしかすぎません。

実は一つ一つの問題について一冊の本が書けるくらい恐ろしい事が沢山あります。この問題をメディアはほとんど取り上げない為この冊子を作る事にしました。もっと詳しい情報をお知りになりたい方は下記まで御連絡下さい。

天笠啓祐 【市民バイオテクノロジー情報室】

〒169-0051 新宿区早稲田町1-9-19 アーバンヒルズ早稲田207号室

遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン内

電話 (03) 5155-4756

FAX (03) 5155-4767

Eメール NO! GMO Campaign (office@gmo-iranai.org)

ホームページ <http://www5d.biglobe.ne.jp/~cbic/>

天笠啓祐の著書

「遺伝子組み換え食品」(緑風出版)

「世界食料戦争」(緑風出版)

「遺伝子組み換え作物はいらない！」(家の光協会)

「生物多様性と食・農」(緑風出版)

「暴走するバイオテクノロジー」(金曜日)

冊子の御注文は下記へ

冊子は無料ですが、送料は御負担下さい。

(カンパも歓迎いたします。)

御注文は、ファックス又はメールでお願い致します。

この冊子は http://www.columban.jp/files/LifePat2012_J.pdf でダウンロードできます。

マッカーティン・ポール 【生命に特許はいらない！キャンペーン】

〒250-0121 神奈川県南足柄市広町 51

電話／FAX 0465-43-6946

Eメール nopatentsonlife@gmail.com

ホームページ www.columban.jp/

